

知床世界自然遺産地域における 次期総合評価書の枠組みについて（案）

1. 本資料について

これまでの検討経緯（下記資料）を元に、総合評価の枠組を再検討した上で、「指標」「評価に用いるモニタリング」「関連するモニタリング」を再整理したもの。

◇今年度第1回科学委員会・資料2-3「長期モニタリング計画 第二期計画の策定検討に向けた基礎資料」及び左記を更新した各WGの資料

◇今年度第1回科学委員会・参考資料3_③知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画 評価項目の評価シート（案）

- ・評価基準を設定しているモニタリングは「評価に用いるモニタリング」として整理。
- ・基礎情報、参考情報に関するモニタリング項目として、評価基準を設定していないモニタリングについては、「関連するモニタリング」として整理。

2. 本WGでの論点

本WGに関連する評価項目を中心に、以下の点について検討。

- ①各指標をどのような基準で評価するのか（現行計画での基準継続も含めて）
- ②「関連するモニタリング等」の中で、指標を設定し、総合評価に活用していくものはあるか。
または現在、指標を設定し、モニタリング結果をもとに評価している項目の中で、次期長期モニタリングでは「関連するモニタリング等」として実施し、総合評価では基礎情報として取り扱うものがあるか。
- ③気候変動の影響もしくは影響の予兆に関する指標やモニタリングとして設定できるものは他にないか。
- ④特に、「知床の世界自然遺産としての価値に対する気候変動の影響もしくは影響の予兆はみられるか」に関する指標及びモニタリング項目の妥当性。